AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2017.9) 平成28年度:12-13.

放射線治療を受けている患者の病棟への情報提供方法の検討～照射野のお知らせ用紙の導入～

佐藤 純子, 堰八 麻由子, 斉藤 容加, 平 千亜紀, 富樫 花織

放射線治療を受けている患者の病棟への情報提供方法の検討
～照射野のお知らせ用紙の導入～

旭川医科大学病院　光学医療診療部・放射線部ナースステーション
〇佐藤純子　堰八麻由子　斉藤容加　平千亜紀　富樫花織

[実践の目的]

放射線治療の有害事象の1つである放射線性皮膚炎は、外的刺激を避けることで悪化予防が可能であり、悪化予防は重要なケアの1つである。A大学病院では、放射線治療を受けている入院患者の照射野に粘着性の創傷被覆材やテープが貼付されていた事例をきっかけに、放射線治療室と病棟との連携を見直す機会を得た。照射野と照射野の管理の基本を知ることで、患者の放射線性皮膚炎の悪化予防の第一歩につながると考え、病棟への照射野周知に向けた情報提供の方法を検討し、取り組んだので報告する。

[実践内容]

1. 実施期間：2015年8月～同12月

2. 対象：放射線治療を受けている患者が入院している病棟

3. 取り組み：①病棟への照射野伝達方法の検討②放射線治療を受けている入院患者の記録の見直し③伝達方法検討の参考にするため、部署内の放射線治療室看護未経験者の認識を確認する④病棟への照射野伝達方法の再検討と運用

[倫理的配慮]

取り組みは上司の許可を得て実施した。照射野の写真撮影時は患者の承諾を得て、プライバシーに配慮した。

[実践の結果]

①線量分布図と照射方向、電子カルテから確認する方法を記載した用紙を作成し、伝達する方法を検討した。試作した用紙について放射線治療室担当以外のスタッフから「見方が全くわからない」「線量分布図を見慣れていなければ、どこに注意すべきかわからない」との意見があり、実施には至らなかった。

②すぐに運用を開始できる方法を検討し、照射野の写真を載せた看護記録を残すこととした。入院患者全員を対象に初回放射線治療時に診療放射線技師が患者に照射野を示す線をつけ、照射野がわかるように写真撮影し、電子カルテに取り込む。更に、看護記録に照射方向を記載することとした。しかし、きっかけとなった事例では創傷被覆材の背面への貼付もあり、正しい照射野を示す線は正面にしかつけられないため、背面も照射野となることが伝わりにくい可能性が考えられた。また、初回放射線治療時の看護記録は、放射線性皮膚炎が出現する治療終盤になってからさかのぼって確認しない可能性があることを考慮し、看護記録だけでは照射野を周知するためには不十分であると考え、照射野の伝達用紙との併用が必要と考えた。

③照射野の伝達用紙作成の参考とするために、放射線治療室看護未経験者に、放射線治療についての疑問、知っている・知らない内容について意見を聞いた。「背面に影響が出るのはなぜか。」「治療の放射線は腫瘍で止まるのか。」等の放射線の特性に関する内容、「放射線は腫瘍にピンポイントで当たるのになぜ照射野として面になるのか。」「放射線は背面からも照射するのに背中に照射野を示す線をつけないのはなぜか。」「位置合わせ用のマーキングと照射野を示す線の2種類があるのは知らなかった。」「位置合わせ用のマーキングの上にテープを貼ってはいけないのはなぜか。」等の放射線治療に関する内容、「照射野はどこを見たら載っているのか。」等の情報収集方法に関する内容について意見があり、知らないことが多いと知った。

④放射線治療室看護未経験者の意見を参考として、照射野がわかり、管理ができ、患者のケアに役立てることができる内容を意識し、新たな照射野の伝達用紙を検討した。用紙の内容は「各患者の記録と同じ照射野の写真を使用し、写真の照射野をわかりやすくマーカーで囲む。背面や側面も照射野となることがわかるように説明を記載する。照射野の管理として何も塗らない・貼らない・こすらないことを簡潔明瞭に表す。位置合わせ用のマーキング管理の注意点を記載する。」とした。また、患者につける位置合わせ用のマーキングと照射野を示す線の違いが分かりやすいようにそれぞれを違う色に変更した。

今回の取り組みで、放射線治療室看護未経験者の意見からも放射線治療に関する知識不足が明らかとなり、連携の重要性を再認識した。放射線治療に関する知識、情報収集が不十分であると患者へ適切なケアや情報が提供できないため、必要な情報を簡単に得られる方法を検討・実践したことは放射線治療看護未経験者・経験が浅い看護師にとっては有効なものとなったと考える。

［今後の課題］

連携の継続に当たり、コスト削減の観点からも、用紙がなくても放射線治療に関する情報を確認し、効果的なケアにつなげていけるように働きかける必要がある。

実践の効果、現在運用している伝達用紙の内容について評価する。また、部署内の放射線治療室看護未経験者の意見から、放射線治療に関する知識不足、認識不足が明らかとなったため、放射線治療を受けている入院患者を実際に看護する病棟看護師の学習ニーズについて把握し、更なる連携強化を図る必要がある。